

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	文学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部における担当授業数および職務分掌の公平化・平均化による研究専念時間の確保と増加を図る。	→ 「文学部各種委員等分担表(数年分)」、「大学執行部役職者一覧(数年分)」、「専任教員の担当授業時間」、「科研費申請数」、「入試問題作成・採点業務分担」	B	B	B	B	B
2. 文学部の授業実態に合わせた教育設備・機器の充実化を行う。	→ 「文学部本館・F号館のAV機器設置状況」、「文学部本館・F号館のコンピューター端末設置状況」、「コンピューター設置状況(他大学との比較)」	A	B	C	B	B
3. 外部研究資金獲得に関する実態調査と、応募促進のための仕組み作りの検討を開始する。	→ 「科研費申請応募・採択状況」	C	B	B	B	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部として、職務分掌の公平化・平均化により、教員の研究専念時間の確保と増加を図った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教授、准教授とも担当時間数は約12時間となっており、平均化されている。しかし学内のさまざまな業務において負担の偏りがあり、中には学部では解決出来ない問題もある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 教員の教育研究の環境を整備する上で、学部で解決できない問題は、大学と共に検討する。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部として、授業実態に合わせた教育設備・機器の充実化に取り組んだ。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2012年度、2013年度に、貸出用ノートパソコンを更新した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 文学部本館の教室の稼働率を上げるため、老朽化している机・椅子の入れ替えを行う。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部として、外部研究資金の獲得状況を把握し、それを構成員に発信することによって、獲得を奨励した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 科研費の採択率は約60%と高い。	2013
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 高い採択率の維持に努める。	☆
		その他	☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【文学部】			単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、 授業補佐の採用数	教学補佐	人	42	44	43	43	40	他に、契約助手2 (2005、2006、2007、2008、2009、 2010、2011、2012、2013、2014年度)
		実験実習 指導補佐・ 教務補佐	人	7	8	8	7	7	
		授業補佐	人	7	6	8	13	19	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	12.6	12.5	12.4	11.8	12.0	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	14.0	11.8	11.2	12.7	11.2	
		講師	時間	—	—	—	—	—	
		助教	時間	—	—	—	—	8.3	